

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育の表現技術Ⅲ expression skill of childcare Ⅲ		2年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程選択必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育の表現技術Ⅰ、保育の表現技術Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子	講義棟3階	火・水・木・金 9時から16時(授業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育の現場における言語表現活動の内容に取り組み、知識と技術を習得する。子どもの発達を踏まえた言語表現について各自が考え、児童文化の魅力を発見する。				
授業の目標				
①保育内容を踏まえ、子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得することができるようにする。 ②言語活動と呼ばれる表現活動に関する知識や技術を習得することができるようにする。 ③子どもが自ら楽しめるような保育の展開と保育環境の具体的な提案を考えることができるようにする。				
授業の方法				
学生個々が作りたい作品を明確にイメージし制作活動を楽しむ。単なる作品の制作ではなく、子どもの遊びやイメージを豊かにすることができる保育のかかわりを意識することも大切。				
学習の成果(学習成果)				
①子どもの言語表現の楽しみ方や児童文化財に触れる面白さを、制作だけではなく継承される日本文化の遊びの面からも捉えて保育実践に繋げることができる。 ②子ども自らが児童文化に親しみ楽しく活動に入り込める保育環境を考えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(児童文化の誕生から現在を探る、授業の進め方と課題への取り組み方の説明、教材準備について)			
第2回目	子どもの発達と絵本—① 絵本の世界を考える			
第3回目	子どもの発達と絵本—② 絵本の読み聞かせによる遊びの展開を考え絵本に親しむ保育環境の提案を探る			
第4回目	子どもの表現活動につながる制作—① 素材を選ぶ			
第5回目	子どもの表現活動につながる制作—② 素材の特性を利用して制作する			
第6回目	子どもの表現活動につながる制作—③ 作品の発表と評価			

第7回目	パネルシアター・エプロンシアターを考える（映像資料「パネルシアターはじめの一步」他）、適した素材を知る	
第8回目	パネルシアター・エプロンシアターの製作―① 題材を考える	
第9回目	パネルシアター・エプロンシアターの製作―② 下絵、色塗り、切り取る	
第10回目	パネルシアター・エプロンシアターの製作―③ 演じ方の工夫と意見交換	
第11回目	紐・毛糸を使つての保育展開―① 「材料を工夫して」～あやとり・ポンポン・ストロー差し・穴差し～	
第12回目	紐・毛糸を使つての保育展開―② 「編む技」～リリアン編み～	
第13回目	紐・毛糸を使つての保育展開―② 「織る技」～いろいろな素材で試す～	
第14回目	人形やぬいぐるみ ～子どもにとっての人形・ぬいぐるみを探る～	
第15回目	保育展開に必要な「保育の表現技術」とは ～教材等の活用、完成を養うための環境構成～	
事前・事後学習	製作は時間がかかるため授業時間内では終わらないことを理解し、自主的に時間を作り作品を完成させる。どんな材料を使い作品を作るのかは自分で調査し考えて決める。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	20%	必要な材料を用意して授業に臨んでいる。製作後の後片付けを進んで行っている。演習活動を楽しんでいる。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	80%	素材の特性を生かし丁寧に仕上げている。（絵本の読み聞かせ10%、表現活動の製作20%、パネルシアターまたはエプロンシアターの製作30%、紐・毛糸を使つての保育展開製作20%）
その他		
教科書と参考図書		
授業内で適宜示します。		
履修上の留意点・ルール		
製作に必要な用具や材料、参考図書を持参すること。		